

青瓢筑波嶺よりの風孕み 沼田布美

『俳句界』十一月号（作品6句）「鷹柱」より

筑波嶺とは男体山を中心に北と東に連なる山々の総称であり、昔は富士山と並び称されたほどの東国の名山です。朝夕に山肌の色を変えるところから「紫峰」とも呼ばれています。古くから信仰の山として栄えてきました。

瓢箪の棚にまだ若い青瓢が何個かぶら下がっている。

神聖なる筑波嶺からの風をたつぷりと受けて揺れている光景。青瓢の描写が清々しく心地良く伝わってきます。

下五の「風孕み」の措辞に余韻が溢れています。遠景から近景へ視覚はもとより吹く風の色、風の匂いまで五感すべてに響く爽やかさが心地良い。